

アクア応援企画 谷中祐輔展 Galatea

展覧会名称	Galatea
会期	2014年1月11日(土)～1月26日(日)
開館時間	11:00～19:00(最終入場18:45まで)
休館日	月曜日(祝日の場合は開館、翌火曜休館)
会場	京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA GalleryC
企画	京都市立芸術大学
主催	京都市立芸術大学
観覧料	無料
お問い合わせ	075-253-1509
関連企画	レセプション2014年1月11日(土)16:00～18:00

本展覧会は、京都市立芸術大学大学院で彫刻を専攻している谷中祐輔の初個展です。谷中は制作初期から大規模で重量のある彫刻を手がけています。石や木に穴を空け、無理矢理野菜を嵌め込む作品や、自らの体のネガを彫り込みその彫刻をよじ登る作品など、常に身体や素材との関わりに焦点を当てた作品を制作してきました。「彫刻作品を制作することで、自分の身体を外部化して保存すること」をテーマとする谷中の作品には、メディアからイメージが氾濫する一方で生身の身体が軽視されがちな現代における、「彫刻」としての一つの態度を見ることができましよう。

本展では、谷中らしいダイナミックで有機的な形態の彫刻シリーズの他に、パフォーマンスの様子を撮影した写真作品も展示されます。素材と身体との関係を、フォルムを介して呼び起こすという命題を現代彫刻に復権しようとする意欲的な若手作家、谷中祐輔の初個展。是非ご高覧くださいませよう宜しくお願い申し上げます。

作家ステートメント

集中力を最大限に発揮すると体が消えるような感覚になることがある。文章を書いているとき、本を読んでいるとき、映画を観ているとき、音楽を聴いているときや演奏しているとき、数学の問題を解いているとき、絵を描いているときや見ているとき、スポーツをしているとき、そういう感覚になることはないだろうか？自分であるという内部と、自分以外であるという外部の境界が曖昧になり、その曖昧さが小気味よくもあり、また不安でもある。私の作品制作にはこういった感覚が色濃く反映される。自分の体と道具や素材が呼応し合い、一体となったり離れたりする。そして、「この石は案外柔らかいな。」とか「この木は随分サクサクしているな。」とか「これくらいの力をかければトマトが割れるな。」とかの理解が私の“消失した体”を通して私の中に入ってくる。そして、私の内部から“判断”が外部化し形態や質となって現れてくるのである。そしてその時“消失した体”は作品と私との両方に股がって存在している。このとき私はどこにいるだろうか？私の内なのか外なのか。その両方によって初めて私が完成するのか。

作家プロフィール

谷中 祐輔 TANINAKA Yusuke

1988 大阪府生まれ

2012 京都市立芸術大学彫刻専攻卒業

中国中央美術学院(北京) 実験芸術科 交換留学

現在 京都市立芸術大学大学院彫刻専攻修士二回生

展覧会歴 / Selected Exhibitions

2009 ココ・アノ・膜・AntenaAAS・京都

2011 Colors of KCUA 2011・@KCUA・京都

2013 みんなちがってみんないい、か・コーポ北加賀屋・大阪

PRESS RELEASE

@KCUA

KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS **ART GALLERY**
京都市立芸術大学 ギャラリー・アクア [堀川御池ギャラリー内]

お問い合わせ: 075-253-1509 infokcua@gmail.com

<http://www.kcua.ac.jp/gallery/>

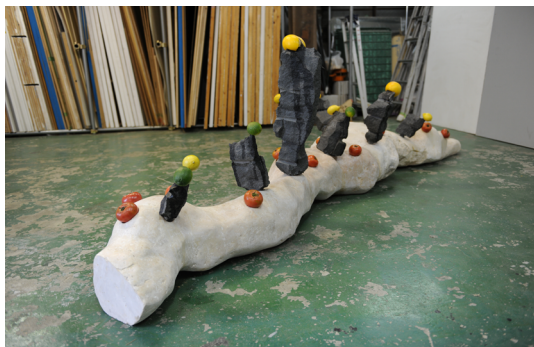
■参考作品



01 「月は自ら光る」の after the rain



02 水木罫)



03 肉と皮



04 稜線の振動 (部分)